



今週の T2 経済レポート

2020年5月29日号

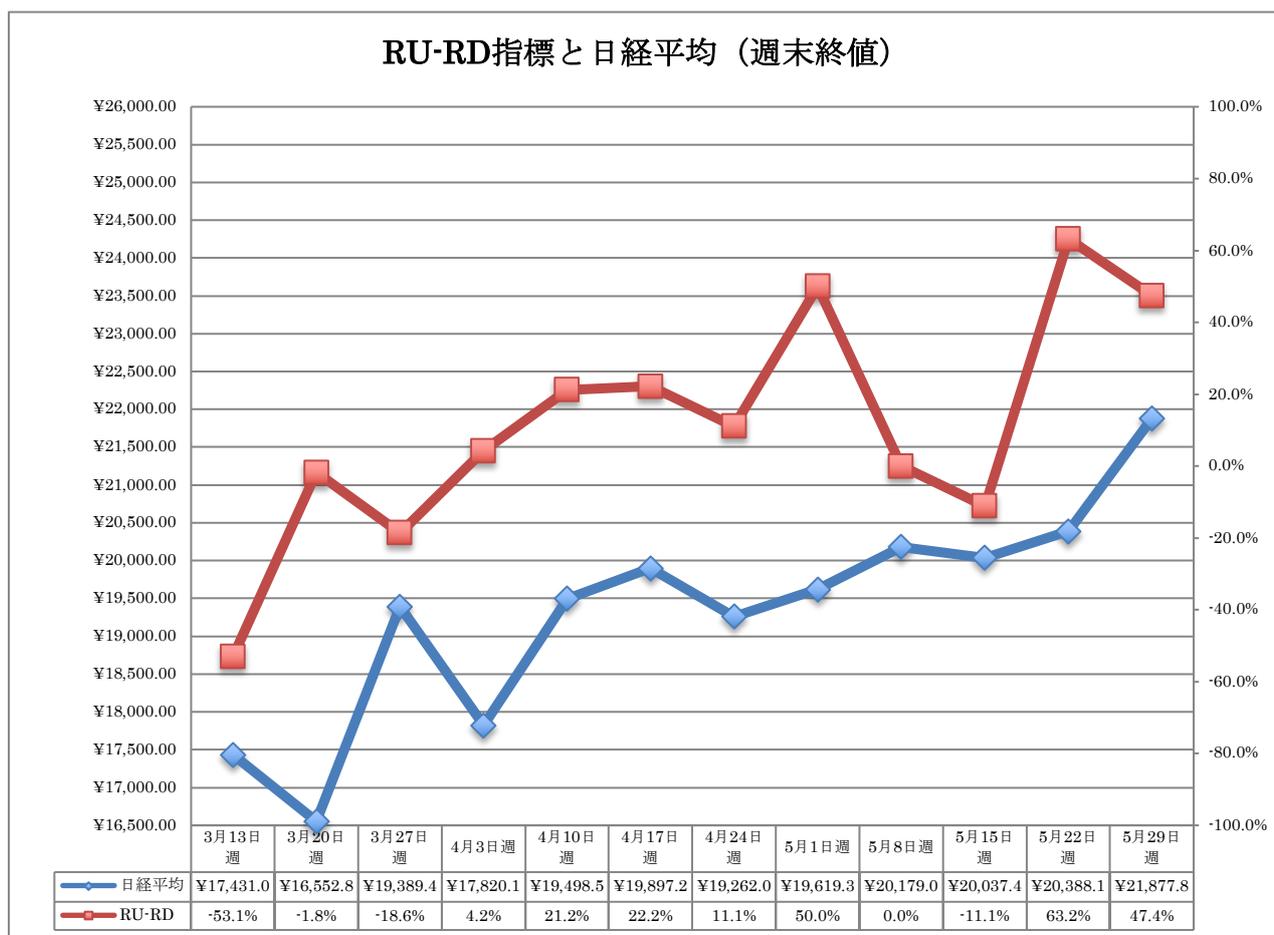
■■■ 市場ウオッチ ■■■

<先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は堅調相場の可能性が高そうです。今週(5/25~5/29)の相場を占う『RU-RD 指標』は5月15日週が+47.4%と2週連続上限ゾーンを超えていることから堅調相場の可能性が高そうです。さらに、来週(6/1~6/5)の相場を占う5月22日週が+32.5%と3週連続プラス圏を維持していることからさらなる堅調相場が期待できそうです。25日に緊急事態宣言の解除見込みに加え、5月20日に東証から発表された「裁定売り残」が2兆4974億円と過去最大に増加していることはこれ以上の売り込みが難しいことを示しており、近い将来、一旦、大きく買い戻す可能性の方が大きい水準かと思われます。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』は2度の5週連続での上限ゾーンを突破後、1月31日週-18.6%→2月7日週-30.0%→2月14日週-11.4%→2月21日週-14.3%→2月28日週-71.4%→3月6日週-80.0%→3月13日週-91.4%→3月20日週-92.9%→3月27日週-90.0%→4月3日週-85.7%→4月10日週-85.7%→4月17日週-82.9%→4月24日週-84.3%→5月1日週-82.9%→5月8日週-68.6%→5月15日週-48.6%→5月22日週-25.7%と17週連続マイナス圏ながら、19年5月13日週~6月10日週以来となる下限ゾーン-40%超を13週間振りに脱しました。また、同指標が-80%超となったのは「チャイナ・ショック」の16年1月18日週以来で、特に、-90%超となったのは2009年9月の「T2」開発以来初めて。そのような稀な3週連続-90%超を記録していることこそが底値圏であることを示唆しており、急落調整が起きるようであれば買いチャンスであることに変化はありません。以前から「本格的な反発には同指標が-40%を割り込むことが必要」と指摘してきましたが、ようやく13週間振りに割り込み、本格的反発の入り口に立ったかたちです。

今週は、経済指標では、国内は28日に5月月例経済報告、29日に4月失業率・有効求人倍率、4月鉱工業生産、5月消費動向調査、一方、海外では、26日に米4月シカゴ連銀全米活動指数、米5月CB消費者信頼感指数、米4月新築住宅販売件数、28日に米1-3月期GDP改定値、米4月耐久財受注、米4月中古住宅販売仮契約、29日に米4月個人所得・個人支出、31日に中国

5月製造業・非製造業PMIが予定されています。26日発表の米CB5月消費者信頼感指数は87.0と、4月の86.9をわずかに上回る見通しの他、28日発表の米1-3月期国内総生産(GDP)改定値は、速報値の前期比年率-4.8%からさらに下方修正されるかが注目されます。このほかのイベント・トピックスとしては、国内では、25日に緊急事態宣言の解除を政府が判断、27日に政府が第2次補正予算案を閣議決定の方針、一方、海外では、27日に米ページブックが予定されています。」とコメントしました。



5月8日週	5月15日週	5月22日週	5月29日週
¥20,179.09	¥20,037.47	¥20,388.16	¥21,877.89
0.0%	-11.1%	63.2%	47.4%

先週の日経平均は、高値 21955 円(5月29日)・安値 20584 円(5月25日)と推移、2週連続で前半・後半高の強いかたち。先週は、緊急事態宣言が全面解除される見通しとなったほか、第2次補正予算への期待、全米での経済活動再開の広がりや新型ウイルスワクチンの開発動向が伝えられ上値目標値を超え、警戒されたトランプ米大統領の中国に関する29日の会見は中国高官対象の制裁や旅券発行制限に関する言及がなく、また、米中第1段階貿易協定は続行する見通しとな

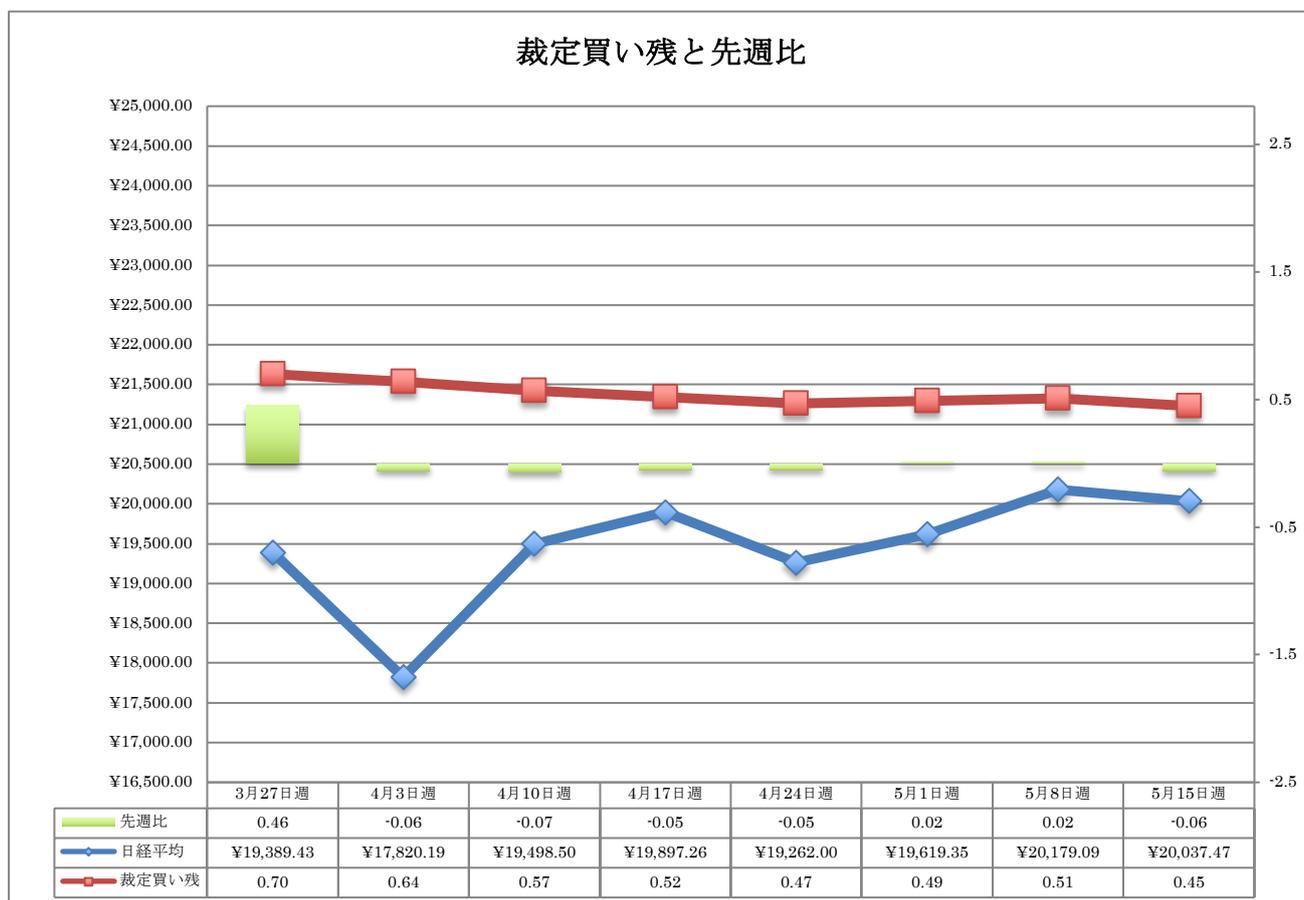
った安心感から、週間ベースで+1489 円の大幅高で 22000 円台に迫り、月間ベースでは 2 カ月連続の上昇で終了しています(先週予告していた上値メ 20924 円~21342 円(+2%かい離)//下値メド 20187 円~19783 円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、5 月 19 日に 20500 円大台替えで仕切り直しが入り、26 日に 21000 円大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに 7 日間、26 日に 21500 円大台替えでカウントダウン継続に 1 日間、従って、28 日までに 22000 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが、残念ながら実現せず時間切れ。22500 円大台替えで仕切り直し、逆に、21000 円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えでは、4 月 30 日に 20000 円大台替えで仕切り直しが入り、5 月 26 日に 21000 円大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに 26 日間、従って、6 月 21 日までに 22000 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、20000 円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、4 月に 20000 円大台替えで仕切り直しが入り、5 月に 21000 円大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに 1 ヶ月、従って、6 月までに 22000 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、20000 円大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期↑、長期↑となり、本格的な反発局面に入りは変わりませんが、目先、乱高下しやすいかたちに変化しました。

日経平均を左右するNYダウは、高値 25758ドル(5月28日)・安値 24781ドル(5月26日)と推移、2 週連続で前半安・後半高の強いかたち。先週は、日本政府が新型コロナウイルスの感染拡大に対応する今年度の第 2 次補正予算案を 5 月 27 日に閣議決定したことや欧州連合(EU)が復興計画案を提示したことを好感して上値目標値を超える一方、中国政府は 28 日、反体制活動を禁じる「香港国家安全法」の制定方針を全国人民代表大会(全人代)で採択し米国と中国の対立は一層深まるとの懸念が高まりましたが、週間ベースでは+918ドル高と 2 週連続で反発して終了しています(先週予告していた上値メド 24940ドル~25438ドル(+2%かい離)//下値メド 23605ドル~23132ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えで、5 月 26 日に 25000ドル大台替えで仕切り直しが入り、27 日に 25500ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに 1 日間、従って、28 日までに 26000ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが、残念ながら実現せず時間切れ。26000 ドル大台替えで仕切り直し、逆に、24500 ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、5 月 26 日に 25000ドル大台替えで仕切り直しが入りました。26000 ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、24000 ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、5 月に 24000ドル大台替えで仕切り直しが入り、さらに 25000ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面入りに 0 ヶ月、従って、5 月中に 26000ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが時間切れ。27000 ドル大台替えで仕切り直し、逆に、24000 ドル大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期↑、長期→、となり、25000 ドル大台替えで本格的な反発局面に入りは変わりませんが、目先、乱高下しやすいかたちに変化しました。

一方、為替は、ドル・円が 107.94 円～107.06 円(先週予告していた上値メド 108.44 円～109.52 円(+1%かい離)//下値メド 107.34 円～106.26 円(-1%かい離))と推移、下値目標値を達成し3週間振りに円高・ドル安、ドル・ユーロは、1.1144～1.0868(先週予告していた上値メド 1.0968～1.1077(+1%かい離)//下値メド 1.0851～1.0742(-1%かい離))と推移し、上値目標値を超え2週連続のドル安・ユーロ高。また、ユーロ円は、119.89 円～117.04 円(先週予告していた上値メド 118.30 円～119.48 円(+1%かい離)//下値メド 116.84 円～115.67 円(-1%かい離))と推移し、上値目標値を超え3週連続の円安・ユーロ高。前の週のユーロ>ドル>円からユーロ>円>ドルに変化しましたが、2週連続でのユーロ反発が継続したかたちです。独仏のEUコロナ復興基金案(5000億ユーロ)に続き、欧州委員会が新型コロナウイルス復興基金案(7500億ユーロ)を提案したことへの期待がユーロ買いの要因。今後は、6月11日のユーロ圏財務相会合や6月18日のEU首脳会談で加盟27カ国の支持が得られるか否かが注目されます。

<裁定買い残>

前の週と異なり増加。一時、今年1月以来の7000億円台に回復しましたが、現在はその反動減の動きかと思われます。一方、「裁定売り残」は、前の週比+732億円の2兆5707億円と3週連続で増加し、過去最大の裁定売り残に増加しています。ただ、これ以上に売り込むことも難しく、一旦、大きく買い戻す可能性の方が近い将来は大きい水準かと思われます。過去の「裁定買い残」の推移を振り返ると、18年9月14日週～28日週の3週間合計で+1.12兆円の急増となり、18年5月21日週以来、約4ヶ月振りに2兆5000円億円台を回復して18年10月2日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18年10月1日週～10月26日週の4週連続減少、4週間合計で約1.5兆円急減、この4週間のうち1週間は5000億円と18年2月5日週以来の急減で、やはり18年10月からの暴落は「VIXショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。



	4月24日週	5月1日週	5月8日週	5月15日週
日経平均	¥19,262.00	¥19,619.35	¥20,179.09	¥20,037.47
裁定買い残	0.47	0.49	0.51	0.45
先週比	-0.05	0.02	0.02	-0.06

単位:兆円

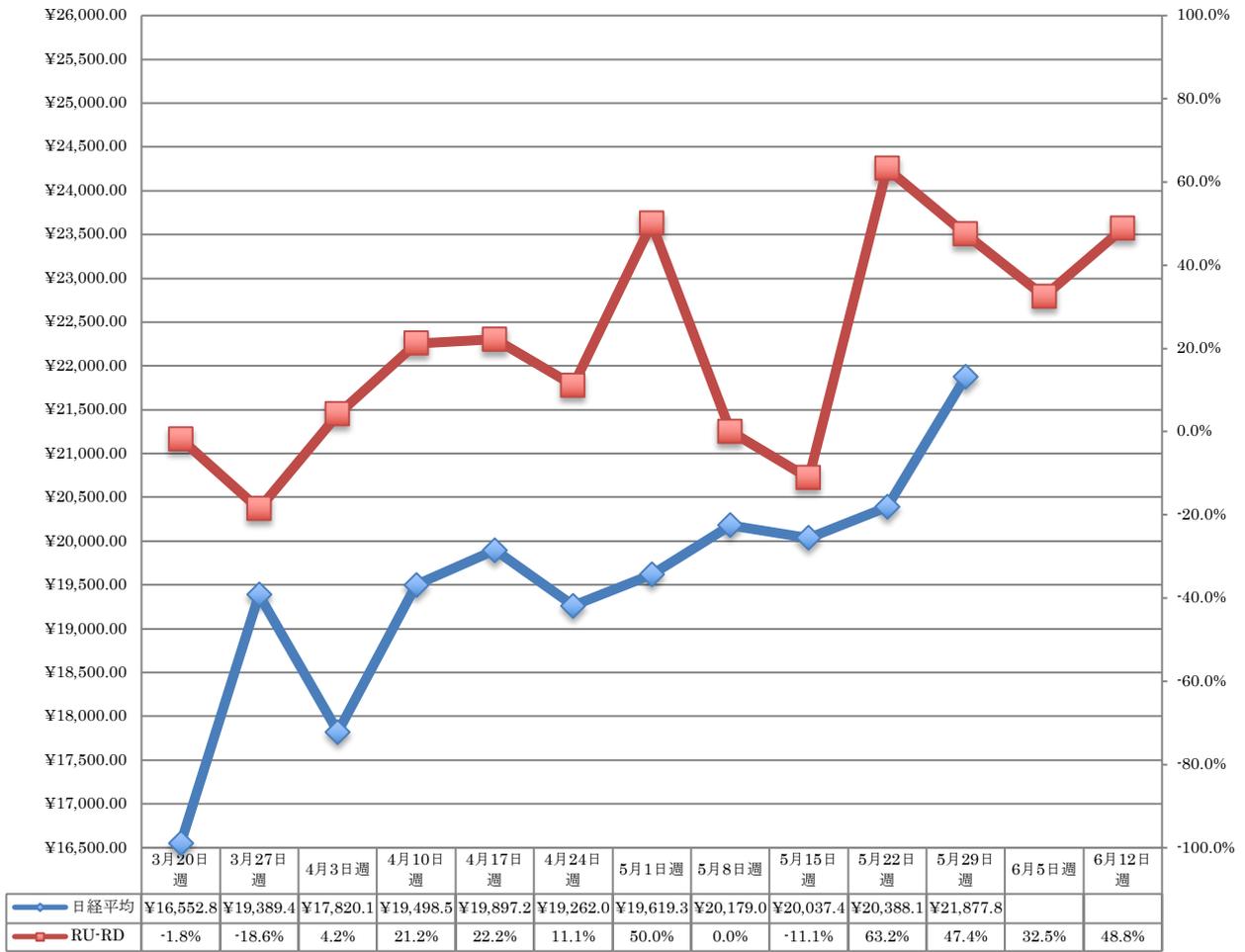
<今週のマーケットの見通し>

今週はさらなる堅調相場の可能性が高そうです。今週(6/1~6/5)の相場を占う『RU-RD 指標』は5月22日週が+32.5%と3週連続プラス圏を維持していることからさらなる堅調相場が期待できそうです。さらに、来週(6/8~6/12)の相場を占う5月29日週が+48.8%と再び上限ゾーンを超え4週連続プラス圏を維持していることからさらなる堅調相場が期待できそうです。4週連続プラス圏はコロナショックの急落後、3月16日週~4月20日週の実質5週連続プラス圏以来。「裁定売り残」が2.57兆円と過去最大に膨らんでいます。6月12日のメジャーSQに向けて踏み上げ相場が期待できそうなかたちです。「押し目待ちに押し目なし」となる可能性が出てきていますが、仮に、6月12日のメジャーSQまでに何らかの悪材料で急落するような場面があれば投資チャンスであることは疑問の余地がありません。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』は2度の5週連続での上限ゾーンを突破後、1月31日週-18.6%→2月7日週-30.0%→2月14日週-11.4%→2月21日週-14.3%→2月28日週-71.4%→3月6日週-80.0%→3月13日週-91.4%→3月20日週-92.9%→3月27日週-90.0%→4月3日週-85.7%→4月10日週-85.7%→4月17日週-82.9%→4月24日週-84.3%→5月1日週-82.9%→5月8日週-68.6%→5月15日週-48.6%→5月22日週-25.7%→5月29日週-1.4%と18週連続マイナス圏ながら、19年5月13日週~6月10日週以来、13週間振りに下限ゾーン-40%超を脱しています。以前から、『同指標が-80%超となったのは「チャイナ・ショック」の16年1月18日週以来で、特に、-90%超となったのは2009年9月の「T2」開発以来初めて。そのような稀な3週連続-90%超を記録していることこそが底値圏であることを示唆しており、急落調整が起きるようであれば買いチャンスであることに変化はありません。』と指摘。また先週は、『以前から「本格的な反発には同指標が-40%を割り込むことが必要」と指摘し、ようやく13週間振りに割り込み、本格的反発の入り口に立ったかたちです。』と指摘し、先週の日経平均約1500円弱の反発となりそれを証明したかたちです。

今週は、経済指標では、国内は1日に1-3月期法人企業統計、5月自動車販売台数、2日に5月マネタリーベース、5日に4月家計調査、4月景気動向指数、一方、海外では、1日に米5月ISM製造業景況指数、3日にユーロ圏4月失業率、米5月ADP雇用統計、米5月ISM非製造業景況指数、4日に米4月貿易収支、5日に米5月雇用統計、7日に中国5月貿易収支が予定されています。6月1日発表の米5月ISM製造業景況指数は43.5と、4月の41.5から小幅に持ち直すと予想されています。また、6月5日発表の5月雇用統計は金融政策決定の鍵を握るため特に注目されますが、失業率19.5%、非農業部門雇用者数は前月比-800万人、平均時給は前年比+8.9%程度と予想されています。失業率は前回は大幅に上回るものの、過去最大に落ち込んだ4月の2053万人減からは減少鈍化を市場がどのような反応をするかが注目されます。このほかのイベント・トピックスとしては、4日にECB(欧州中央銀行)定例理事会、ラガルドECB総裁会見も注目され

ます。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



5月22日週	5月29日週	6月5日週	6月12日週
¥20,388.16	¥21,877.89		
63.20%	47.40%	32.50%	48.80%

■■■ 今週の各指標の上値・下値メモ ■■■

<日経平均>

上値メモ 21753 円～22188 円 (+2%かい離)

下値メモ 20995 円～20575 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メモ 26313 ドル～26839 ドル (+2%かい離)

下値メモ 25107 ドル～24604 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メモ 108.38 円～109.46 円 (+1%かい離)

下値メモ 107.12 円～106.04 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メモ 1.1125～1.1236 (+1%かい離)

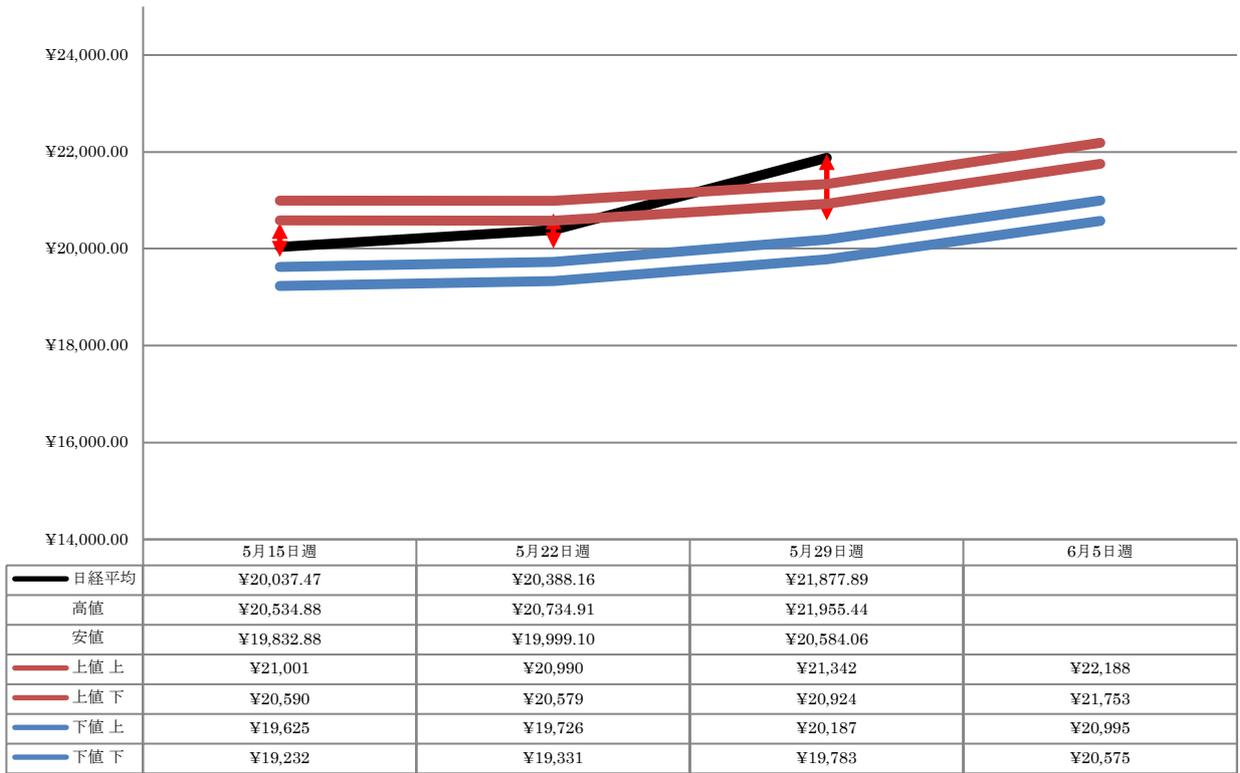
下値メモ 1.0956～1.0846 (-1%かい離)

<ユーロ円>

上値メモ 120.11 円～121.31 円 (+1%かい離)

下値メモ 117.86 円～116.68 円 (-1%かい離)

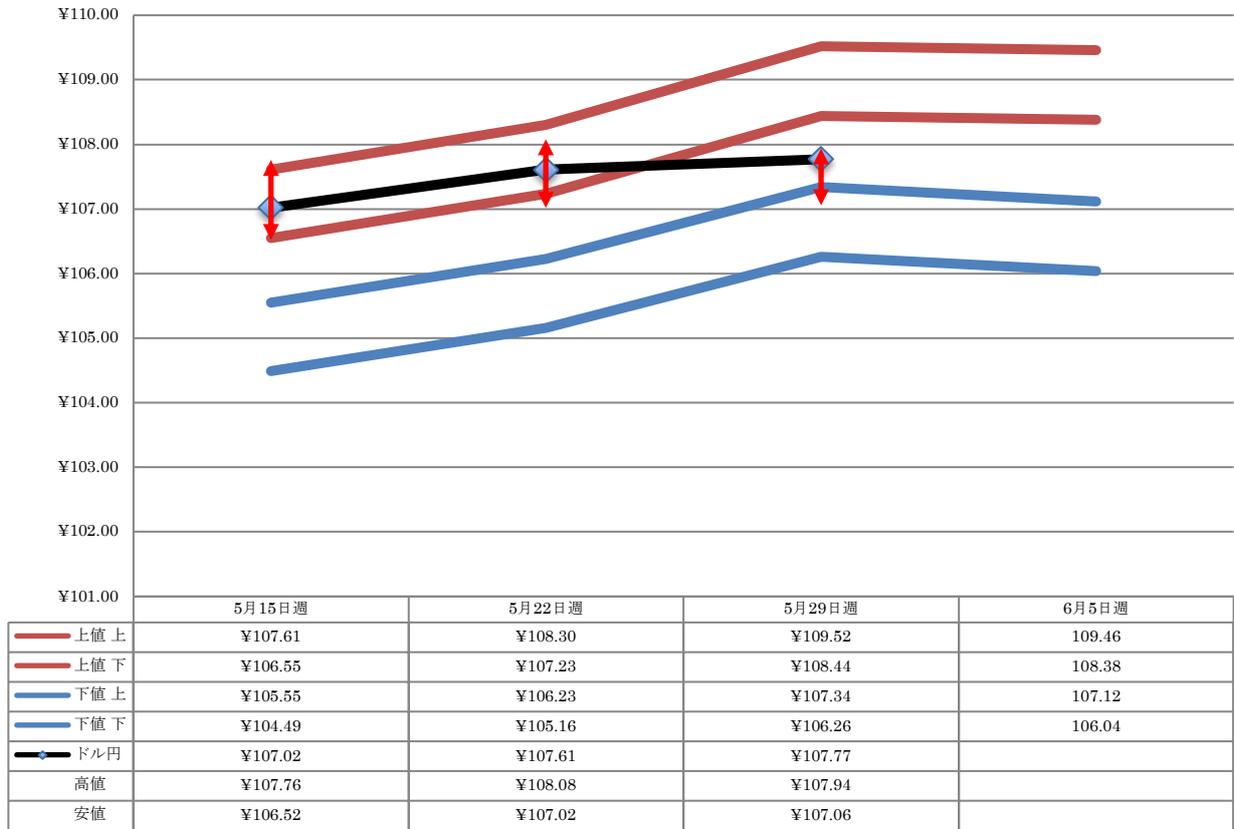
日経平均



NYダウ



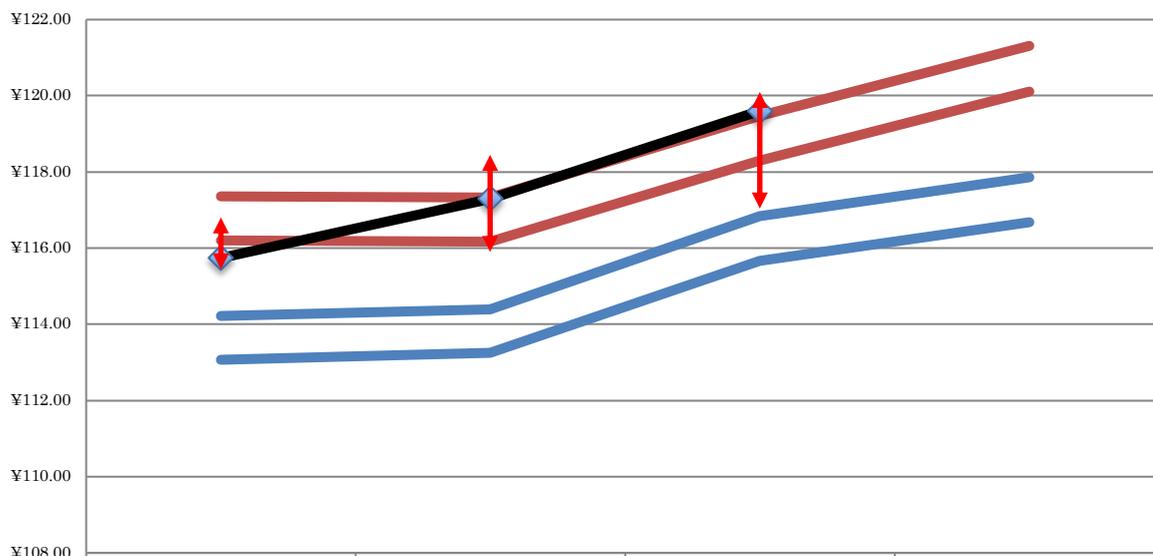
ドル円



ドルユーロ



ユーロ円

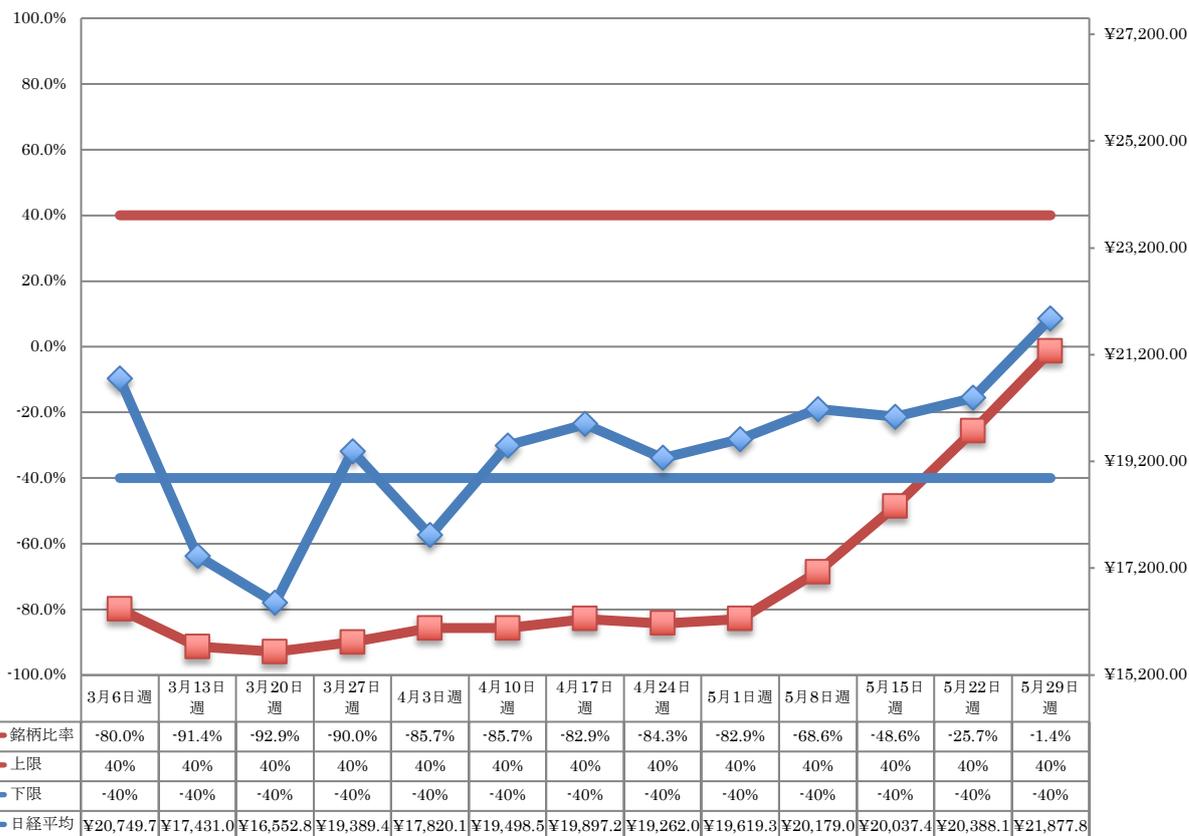


	5月15日週	5月22日週	5月29日週	6月5日週
上値上	¥117.36	¥117.33	¥119.48	¥121.31
上値下	¥116.20	¥116.17	¥118.30	¥120.11
下値上	¥114.22	¥114.40	¥116.84	¥117.86
下値下	¥113.07	¥113.25	¥115.67	¥116.68
ドルユーロ	¥115.74	¥117.29	¥119.60	
高値	¥116.81	¥118.46	¥120.10	
安値	¥115.44	¥115.89	¥117.05	

■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は2度の5週連続での上限ゾーンを突破後、1月31日週-18.6%→2月7日週-30.0%→2月14日週-11.4%→2月21日週-14.3%→2月28日週-71.4%→3月6日週-80.0%と推移→3月13日週-91.4%→3月20日週-92.9%→3月27日週-90.0%→4月3日週-85.7%→4月10日週-85.7%→4月17日週-82.9%→4月24日週-84.3%→5月1日週-82.9%→5月8日週-68.6%→5月15日週-48.6%→5月22日週-25.7%→5月29日週-1.4%と18週連続マイナス圏ながら、19年5月13日週～6月10日週以来、13週間振りに下限ゾーン-40%超を脱しています。以前から、『同指標が-80%超となったのは「チャイナ・ショック」の16年1月18日週以来で、特に、-90%超となったのは2009年9月の「T2」開発以来初めて。そのような稀な3週連続-90%超を記録していることこそが底値圏であることを示唆しており、急落調整が起きるようであれば買いチャンスであることに変化はありません。』と指摘。また先週は、『以前から「本格的な反発には同指標が-40%を割り込むことが必要」と指摘し、ようやく13週間振りに割り込み、本格的反発の入り口に立ったかたちです。』と指摘し、先週の日経平均約1500円弱の反発となりそれを証明したかたちです。

日経平均とT2レーティング比率



□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。